【編集後記】

自然エネルギーの活用と風力発電の行方

島根県出雲市多伎町の「キララトゥーリマキ風力発電所」、「トゥーリマキ公園」は出雲市の観光スポットで、NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）と経済産業省が実施する『新エネ百選』に選定されている。「トゥーリマキ」という聞きなれない言葉は、フィンランド語で、「風の丘」の意味とのこと。

青空をバックにそびえる風車、白砂青松の日本海に張り出す丘に建つ洒落た北欧風の道の駅「キララ多伎」は、家族連れや女性達の記念撮影に人気の場所である。周辺には、キララビーチ、マリントラソ、聖武天皇の勅願寺と伝えられる古刹、華蔵寺、古くからの温泉地も多く、美しい自然の中で、新旧の産業や文化が融合している。

北海道の北西部、留萌地方海岸部にある苫前（とままえ）町は、「風のまち」として知られる道内屈指の強風地帯で、冬には地面から殴りつけるような地吹雪が吹き荒れる。この「厄介者」でしかなかった風を使ったイベントが、毎年2月に開催される「苫前町凧あげ大会」で、迫力ある武者絵が描かれた強靱な津軽凧が、ブーンとうなり声をたてて風を切り、老若男女を夢中にさせる。

そして、この風は、苫前町のシンボルともいえる風力発電につながった（1995年、通産省の「地域新エネルギービジョン策定事業」。産業遺産である羽幌炭鉱で架設した6.6万ボルトの送電線があったことが、強力な追い風となった）。

苫前町上平地区は、民間企業によるわが国初の本格的な風力発電施設で、北海道の雄大な景色の中、牧場で馬や牛がのんびりと草を食み、上空では、巨大な風車が回り、無尽蔵でクリーンなエネルギーを生み出す「未来型エネルギー牧場」は、観光面でもプラス が期待されている。

和歌山県内では、有田郡や日高郡等で風力発電所が建設中で、更に大きな規模の事業も計画されている。風力発電に不可欠な3条件 1.有効な風速 2.機材搬入に利用できる林道、アクセス道路の整備と十分な用地 3.事業実施区域内に連系可能な送電線があること が、適地として選定の理由である。

ところで、先般、政府の2013年度予算案で、経済産業省が新規に要求した「北海道における送電網の整備」に250億円の満額が盛り込まれた。現在のわが国の電源構成をみれば、いわゆる「再生可能エネルギー」の占める割合は10%余。しかし、その9割は、大型ダムを中心とする水力発電で、太陽光や風力、バイオマス、地熱等は、合計で約1.4%にとどまっている（2011年）。

化石燃料の高騰や原発の長期停止、また、CO₂や硫黄酸化物等の排出のないクリーンなエネルギーを望む風潮の中、国は、再生可能エネルギーの比率を高めるためのインセンティブとして、昨年7月に、「固定価格買取制度」を導入したが、買取価格が比較的高い太陽光発電に導入が偏り、ヨーロッパ等で主力の風力は、日本では7月の制度開始後、太陽光発電のわずか3%にすぎない（デンマークでは、再生エネルギーの7割を風力が占める。ドイツは4割）。

日本で、風力発電の導入に慎重な大きな理由は、一定規模以上の風力発電事業に対して、ダムや原発、火力発電所の建設並みの厳しい環境アセスメントの実施が義務付けられ（太陽光発電には不要）、騒音や動植物の生態系調査、景観保全の調査、取組みがもとめられ、その手続きに4、5年を要するからである。

現在、青森県つがる市で、55基の風車を並べ、総出力12万kw以上という国内最大規模の建設計画が進んでいるが、最近になって該当地域の一部で、近くの国立公園周辺に生息する野鳥が、風車の羽根にぶつかる「バードストライク」等の発生が予想されるとして、計画の見直しを余儀なくされ、着工が先延ばしになったという。

発電コストでは、太陽光発電より、風力の方が低く、バイオマスや地熱発電がなかなか進まない状況を見れば、世界的に風力発電が今後の再生可能エネルギーの普及をリードすると思われる。

しかし、風力発電をめぐって、騒音や振動、超低周波音、シャドーフリッカー（晴天時、風車の回転によって地上部に生じる影、明暗のストロボ効果。太陽高度の低いドイツでは裁判も）等について、住民の不安も寄せられる。便利さ、コスト、エネルギー供給、そして環境と人間の安全…。全てを考慮しなければならぬ難しい時代といえます。

（谷 奈々）

21世紀 WAKAYAMA

Wakayama Institute for Social and Economic Development

Vol.73

発行 平成25年6月17日
編集発行者 一般財団法人 和歌山社会経済研究所
〒640-8033 和歌山市本町2丁目1番地
フォルテワジマ 6階
TEL(073)432-1444(代)
FAX(073)424-5350
URL : <http://www.wsk.or.jp/>
印刷 株式会社 昇和印刷

無断転載・複写を禁ずる